熟練ダイビングガイドのセーフティ・マネジメント

　1814009　　幸王　啓佑　（海洋スポーツ・健康科学研究室）

Ⅰ．研究の背景と目的

近年，ダイビング人口に対する事故発生件数に減少が見られない。ダイビングの安全管理や，自然環境活動におけるセーフティ・マネジメントに関する先行研究として，篷郷らによるダイビングにおける事故の分析による注意喚起1)や，村越らによる高所登山家を対象とした実践知に基づく研究2）は見受けられるものの，ダイビングガイドのセーフティ・マネジメントに着目した研究は見受けられなかった。そのため本研究では，熟練のダイビングガイドに対象を絞り，セーフティ・マネジメントの特徴と本質，実践知を明らかし，より安全なダイビング活動に貢献することを目的とした。

Ⅱ．研究の方法

　レジリエンス・エンジニアリングの文献3）を参考に大きく10項目の質問を設定し，9人のダイビングガイドに対してインタビュー調査を行った。得られたテクストデータの分析においては，大谷が考案した分析手法である，4ステップコーディングによる質的分析手法「SCAT（Steps for Coding and Theorization）」4）を用いた。

Ⅲ．結果

9人のインタビューに対してSCAT分析を行い，合計で162個の概念を抽出した。

Ⅳ．考察

抽出した概念をもとにストーリーラインを記述することで考察を行った。例えば「ゲストを楽しませるというお客さんとしての扱いと，ゲストの安全を確保するという責任者としての立場の両立」など，これらはダイビングを行う際にガイドが意識すべき点とも捉えることが出来るため，より安全なダイビング活動を行うにあたっての一助になると考える。

Ⅴ．今後の課題

経験の浅いダイビングガイドとの比較を行い，経験が浅い者において不足している要素を明らかにすることも，ダイビング事故を減少させる一助となるのではないだろうか。

主な参考文献

1. 蓬郷尚代・千足耕一（2012）「レジャー・スクーバダイビングにおける事故の傾向に関する分析」

2）村越真・中村美智太郎・河合美保（2014）「高所登山は死と隣り合わせか―高所登山家のリスクの捉えとリスク対処方略を明らかにする―」

3）芳賀繫（2012）「レジリエンス・エンジニアリング:インシデントの再発予防から先取り型安全マネジメントへ」

4）大谷尚（2007）「）4ステップコーディングによる質的データ分析手法SCATの提案　－着手しやすく小規模データにも適用可能な理論化の手続き―」